

真宗寺

# 寺報 竹の子

平成二十五年創刊号

## 任職挨拶

厳冬の候、ご門徒の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。益々御健勝のこととお慶び申し上げます。又、平素はひとかたならぬ御愛顧を賜り、ありがとうございます。

この度、真宗寺の門徒会報紙として「竹の子」を発刊し、仏教の視点から現代の諸問題を題材に布教に取り組んでいきたいと考える次第です。

また、今回の親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に伴う寄付につきまして、公正明大な収支報告をさせて頂きますので、よろしく願います。より明瞭な寺院運営の一環として御了承いただければ幸いです。今後も皆様のご支援、ご協力を賜れるよう精進してまいりますので、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

真宗寺住職

長崎寿秀

## ●真宗寺総代 代表挨拶

総代の小野と申します。総代というのは、門徒の総意を代表して、これを寺の運営に反映できるよう助言と勧告を行い、皆さんとお寺との橋渡し役であります。まず、これまでの懸案事項でありました門徒会費の使途を明確にして、開示できるよう努力する所存でありますので、どうぞよろしくお願い致します。

真宗寺総代 小野恒彦

## ●責任役員代表挨拶

この度責任役員として選任頂きました。何分一からのスタートです。前任役員の残された功績には及びませんが、微力ながら私なりに全力を尽くす所存でございます。どうか皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

真宗寺責任役員 川口敬一

## ●現代に残る仏教語① 「諦め」

「諦」は、あきらかにすることやあきらめること、そしてまことや真理という意味があります。また、「諦め」を辞書で引くとあきらめること、思いきること、断念と記されています。普段私たちは、「諦める」という言葉に対して「断念する」という意味で使っていることが多いでしょう。

お釈迦さまが、悟りを開いた後、初めて五人の修行僧に対して説いた内容が「四聖諦」（しししょうたい）の教えです。四つの「諦」とは、苦諦・集諦・滅諦・道諦の真理を表しているのですが、人生は苦であり（苦）、その原因は渴愛、つまり自己中心的な「独りよがりによる驕り」、つまり「支配欲」であり（集）、これを解消することが涅槃となり（滅）、その為の方法が八正道（道）という意味になります。「諦め」という本来の意味は、消極的な「断念する」という意味ではなく、ものごとをあきらかにしていき、真実と向き合う為の道理を意味することになります。「断念」という意味があるのは、苦行を共にした五人の修行僧が、苦行をやめたお釈迦さまに対して、「悟りを断念した」と判断したからだという説が有力ですが、法を聞いたその修行僧は、その後最初のお釈迦様の弟子になったそうです。

## ■真宗寺年間行事のご案内

### 定例聞法会

三月二十五日（月）、四月二十五日（木）、  
五月二十五日（土）、六月二十五日（火）、  
七月二十五日（木）、八月二十五日（日）、  
十月二十五日（金） 毎月十時半より

※真宗寺の本堂にて講師の先生より毎月二十五日にお檀家の皆様に浄土真宗（親鸞聖人）の教えを分かりやすくご法話して下さる会です。

### 声明会

四月二十一日（日）、五月 十九日（日）、  
六月 十六日（日）、七月二十一日（日）、  
八月 十八日（日）、九月 十五日（日）、  
十月 二十日（日）

毎月第三日曜日午後二時より

※真宗寺の住職がお檀家の皆様に浄土真宗のお経を分かりやすく説明し、一緒に声を出しながら皆様とふれあう会です。

### 蓮如上人法要

四月 二十五日（木） 十時より

### 秋彼岸

### 永代経法要

九月 二十三日（月） 十時半より

### 報恩講

十一月 十一日（月） 十時より

### 鐘つき

十二月三十一日（火） 午後十一時四十五分頃より



## ■おみがき・お手伝い（お給仕）のお願いのご案内

長年に渡り、真宗寺の仏具はお檀家の皆様による「おみがき」によって今日まで綺麗に美しい状態で護持されてきました。この機会には非一緒に皆様の菩提寺である真宗寺の仏具と一緒に磨いてみませんか。おみがきは、どなたでも簡単に出来ますし、お道具も何も要りません。お身体一つでお気軽にお越しください。お待ちしております。

又、真宗寺行事の際におけるお斉（精進料理）もお檀家の皆様による、「お手伝い」（調理・配膳・後片付け）で護持されてきました。

ところが近年の状態で、年々お給仕をして頂ける方が減っております。是非、お時間ご都合の合う方は、お檀家さん同士の絆を深める良い機会だと思っておりますので、こちらもお気軽にご参加下さい。お待ちしております。

## ■あとがき

ここ最近、私達を取り巻く環境・状況によるお檀家の寺離れが浮き彫りになっていきます。これは単に状況だけでなく、これまでのお寺の有り方、皆様との接し方等による重大な問題であると私は考えます。

例えば、一例として葬式が挙げられます。本来は大事なご家族が亡くなられた際、先ずは葬儀式を執行・取り仕切るお寺に連絡をして、住職・又は担当の僧侶とご家族（ご遺族）で相談の後、通夜・葬儀の日程を決めます。儀式の日程（流れ）・予算は葬儀屋ではなく、我々、お寺と檀家で相談して決めるのが正しい姿であります。

皆さんとの距離を縮める方法として、お寺の行事案内を始め、本年度の回忌表等を記載した寺報「竹の子」を発刊させて頂きました。葬儀式を始めとした法事やその他のことでも結構です。皆様のご希望にお応えしますので、お気軽にご相談下さい。